



皆さんこんにちは。関目教室で集団クラスを担当しています井塚裕介です。開智の卒業生で、現在は立命館大学で日本文学を専攻しています。

さて突然ですが、皆さんはなぜ国語を勉強しなくてはならないのか、疑問に思ったことはありませんか。「おれ日本人やし」「別に日本語喋れるし」一度は思ったことがあるはず。私は国語大好き人間ですが、やはり「なんで国語やらなあかんねん」と思っていた一人です。今回はそんな国語について熱く語ろうと思います。

まず初めに、当たり前ですが、国語とは「言語」です。「言語」は人と人がコミュニケーションを取るために必要です。会話をする、手紙を書く、ラインをする、いずれも「言語」が必要です。

ではもし「言語」がなければどうやってコミュニケーションを取りますか？うんうん。そうですね。ジェスチャー、目線、表情、音楽、察し(これ嫌い)、狼煙など、様々な方法が考えられます。つまり、言語がなくてもコミュニケーションは取れるということが分かります。

ちなみに、「人が他人から受け取る情報の割合」のうち、「顔の表情」が5%、「声の質、大きさ、テン

国語って本当に必要？

ポ」が38%、「話す言葉の内容」が7%だそうぞす(たったの7%)。

しかも、そういった顔の表情や人の仕草といった「動作」は信頼できます。例えば、先生に「宿題やってきたよな？」と聞かれてギクリとして冷や汗をかいたり(焦り)、胸を張って歩いたり(自信)、貧乏ゆすりをしたり(イライラ)、大勢の人に注目されて身体が硬直したり(緊張)と、動作は嘘をつきにくい。逆に「言語」は簡単に嘘をつくことができます。『彼氏にラインで「好きだよ♡」と送りながら他の男とデートしたり…。』恐ろしいですね。

するとここで思うわけです。「あれ、言語って不確かでいらなくね？」と。しかし、決して不必要ではありません。

例えば「昨日自分が見た映画を友達にオススメする」時、あなたならどうしますか？表情やジェスチャーだけで表現できますか？100億%無理です。そう、やはり「言語」が必要です。

しかも、皆さん次のような経験があるはず。『あーもう、こんなじゃないねん、なんて言えばいいか分からん！とにかく面白いから観て！』と、最後は投げやりに。

また、美しい景色を見たときに、「ヤバイ」「すごい」「えぐい」などの語彙だけで、十分に気持ちを言い表せていますか？これらのような、自分の気持ち

を100%言えなくてもどかしい経験。皆さんありませんよね。

つまり、生活を通じて無意識に獲得した言葉、言語知識だけでは不十分なのです。だから、国語を学ぶのです。国語を通して、自分の気持ちをほぼ100%に近い形で伝えられるようになること。それが国語という教科の役割なのです。

そのために、まずは「語彙力」です。「彙」という漢字を「語彙」以外の熟語で見たことがない人がほとんどだと思います。私もそうでした。実は「彙」という漢字には、「はりねずみ」という意味があります。はりねずみを想像してみてください。愛らしい顔ですが、鋭い無数の針が印象的です。すなわち、はりねずみの針のように、語をたくさん集めた人、ストックがある人、使いこなせる人が「語彙力」のある人です。

さて長々と国語について語ってきましたが、皆さんはどう考えるでしょうか。納得してくれた人もそうでない人もいます。私自身も自分の気持ちを100%伝え切れていません。国語の難しいところです。しかし、これまで述べてきたような国語の役割を意識し、勉強のモチベーションを高めてもらえれば嬉しいです。国語を勉強して自分の気持ちや考えを上手く伝えられるかっこいい人になりましょう！



熊谷のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE 熊谷 周作(今津教室)

人は人によって磨かれる

新年度が始まりました。新しい顔が増え、各クラスの授業の雰囲気も少しずつ変化しています。生徒や、先生が変われば、その場の雰囲気も大きく変化します。今はちょうどそのような時期になっているように思います。



▲できたら手を上げる。こういうことも大切な勉強です。

先日、新入生の子の初回授業がありました。新年中さんでまだまだお母さんに甘えたい時期です。どうやらお母さんと離れるのが寂しく、泣いてしまいました。しかし、授業が始まりその場に慣れてくると、どんどん率先して勉強を進めています。その子を見ていた新小学1年生の子が、声を掛けます。「せっかく勉強に来てるんやから、寂しいと思うけど、がんばりやー。」と、なんとも頼もしい一言だと感心させられました。

その子も以前はきちんと椅子に座ることもできず、集中する時間はわずかだったのですが、周りのお兄さん、お姉さんの姿を見て、同じように集中して勉強できるようになってきました。そして、その子達を教えているのもカイチ出身の卒業生。教わっていた立場から教える立場になり、生徒たちの成績を伸ばすために、必死になり指導にあたってきています。

塾といえば成績を上げるところですが、開智総合学院はそれだけにとどまらず、人の成長を支える場所として、存在しているように思います。「人は人によって磨かれる」まさにその通りで、日々成長をさせてくれるこの場所は、本当に貴重な場所になっているのではないかと感じます。

先日非常勤講師の中川先生がカイチを卒業しました。今後は社会に出て活躍してもらいたいのですが、それを知った生徒達が、最後に手紙や色紙を書いてくれました。私は開智総合学院で約10年働いています。その初年度に見た生徒が、先生になり、その先生を卒業する時には、今教えている生徒達や、卒業した生徒達に見送られる。なんとも感慨深い光景です。それも時には悩み、苦しみ、怒ったり、励まされたりしながらも、持てる力を出し切って指導にあたってくれたから、みんなの心を動かしたように思います。



▲習う立場から教える立場に子供達を指導している多くの非常勤の先生も元カイチ生。

受検生達が卒業し、また新しい生徒達と先生達が入ってきています。教室に新しい空気が流れ、また研鑽の日々の始まりです。1年後にこの教室がどうなっているかはわかりませんが、今以上の良い教育の場になるように、私自身も勉強し、よりよいものを作り上げられるように励んでいきたいと思っています。今年も活きのいい先生ばかりです。ぜひ見かけたら、声を掛けてあげてください。これからも頑張っていきたいと思いますので、今年度も宜しくお願いします。

カイチからのお知らせ ■中学英検第1タームを4月7日(木)~4月28日(木)で実施します。 ■中学中間テスト模試を4月20日(水)~4月25日(月)に実施します。 ■小学診断テストを4月27日(水)・28日(木)に実施します。

Growing

April 2022
Vol. 115
毎月10日発行

【本部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【高殿教室】 城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008	【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220
【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563	【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011



高木 秀章(塾長)

受験生の皆さん、そして保護者の皆様、本当にお疲れ様でした。



今年も受験が終わりました。

高校入試では112人が合格。受験結果は別紙に詳しく載せてありますが、文理学科合格者は過去2番目となる29名、国立合格者が5名、その他、多くの生徒達が志望校合格を果たしました。

また、カイチ予備校・エニグマの大学受験では、神戸大学や大阪公立大学をはじめとする国立大学に6名、関関同立には19名、産近甲龍には18名の合格者を出し、飛躍した昨年度を上回る形で終えることができました。

今年の高校入試の文理学科受験では、本番の英語テストの難易度が下がったことで、英検2級を取得した生徒であっても大きなアドバンテージにならず不合格になるケースが見られました。もしかしら、文理学科受験生の2級取得率そのものも上がっているかもしれません。

公立入試問題の分析については、後の坪田先生の記事に譲りますが、入試問題が全教科的に例年に比べて易化し、数年前の数学や国語のような平均点が低く差が出にくい教科がなくなりました。結果として、どの教科や単元も卒なく確実に得点する力が求められるテストとなり、ちょっとしたミスはすぐに不合格に繋がる印象のテストとなりました。

今年度の受験を見る限り、文理学科を目指す人達は、5科を弱点箇所がないよう今まで以上に仕上げ、時間配分を含めた答案作成のトレーニングにも注力する必要があります。また、英語の受験問題レベルが今年度並みで続くようなら、英検2級取得に貴重な受験勉強の時間をどこまで割くかも判断が必要です。

生徒達は本当にこの1年間良く頑張りました。定期テスト2週間前から毎日自習に来て、直前は9時間自習。夏はクラブをしながら、学校と山のような塾の宿題。そして小テスト。秋からの文理学科講座や受験対策では鬼のような先生達の圧力に耐え、私立終了後には息つく間もなく、毎週の大学予想模試と結果の張り出しで最後の最後まで追い込まれました。また、年明けからは受験だけでなくオミクロン株が大流行し、いつ感染するかわからない状況下の受験でした。本人たちも、ご家族も神経を使われたと思います。

みんな、間違いなく頑張った。でも、全員合格とはなりません。不合格であったにも関わらず、授業担当のない私の所にわざわざ挨拶に来てくれた生徒。「子供の前では泣けないから」と私の前で泣かれたお母さん…。

できれば全員を合格させてあげたかった。でもそうはならなかった。肩を落とし、努力は無駄だったと思う人がいるかもしれない。自分にはやはり能力がないのではと、自分で自分を疑う人もいるかもしれない。

それでも、努力と工夫を諦めないでください。高校入試で思う結果が出せなくても、大学入試がある。大学入試でダメでも、そこで身に付けた「努力と工夫を続ける姿勢」は必ずみんなの人生を支える大きな力になると信じています。

人生を決めるのは受験の可否ではなく、受験を通して培った努力と工夫を続ける姿勢を持ち続けられるかどうかにかかっていると私は考えています。そのような意味では、先生達もまだ努力と工夫の道の途中です。皆さんは、卒業してもずっとカイチ生です。いつでも遊びに来てください。皆さんのこれからの活躍と成長を心よりお祈りしています。

〈保護者の皆様へ〉

保護者の皆様、1年間お疲れ様でした。子供達が最後までやり抜けたのは、保護者の方の愛情ある見守りがあったからこそです。思春期で不安定な時期の子供達に、追い打ちをかけるようなオミクロン株の流行。受験のデリケートな時期に、感染リスクと常に背中合わせにある不安。子供達の精神面と健康面への気苦労が絶えなかったことと思います。受験の前に、親が子供にできることはただ見守ることしかありません。でも、それが子供達にとってどれだけの安らぎと勇気を与えたことか。彼らはその思いを胸に、新たな高校生活を逞しく歩んでくれることと思います。最後に、未熟で至らぬ私共にも大切なお子様を預けてくださり、そして最後まで通塾させていただき誠にありがとうございます。これからも、地域密着の塾として、少しでも子供達、保護者の方に寄り添えるよう精進努力を重ねてまいります。

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

更なる進化を遂げた カイチ予備校

熊谷 真宏 (カイチ予備校)

新年度が始まり、新たな学年での生活がスタートしました。カイチ予備校はこの3月で開校してからちょうど4年が経ち、節目の5年目を迎えました。昨年の夏のGrowingの記事では「カイチ予備校が毎年着実に進化している」という内容について書きましたが、今年は更なる進化を遂げています。

まず合格実績ですが、国公立大は昨年の5名には届かなかったものの、難関の神戸大学に1名、大阪公立大学(大阪市立大学と大阪府立大学が合併してきた大学)に1名、和歌山医科大学に1名の合計3名が合格しました。関西の難関私立大学群である関関同立(関西大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学)は、最難関の同志社大学に2名が合格し、続いて立命館大学に2名、関西学院大学に5名、関西大学に3名の合計12名(昨年は6名)が合格し、開校以来初めて4大学を制覇することができました。また、その下の中堅私立大学群である産近甲龍(京都産業大学・近畿大学・甲南大学・龍谷大学)は、近畿大学に8名、龍谷大学に6名、京都産業大学に2名の合計16名(昨年は9名)が合格しました。来年受験する現高校3年生は現時点で50名在籍しており、さらにそのうち約半数の生徒が国公立大を第1志望としていますので、来年は今年を大幅に上回る合格実績が期待できそうです。その分、教える側の私達にかかるプレッシャーは計り知れないものがあるのですが、全員を第1志望校に合格させることができるように全身全霊をかけて臨みたいと思います。

続いて講師陣ですが、今年はより一層厚みが増しました。開校当初から予備校で教えている数学科主任の福井先生と物理・化学の対馬先生の二人に加え、「超一流」と呼ぶにふさわしい先生達が揃っています。体験した生徒がごとごとく受講を即決したり、開講講座がすでに満席となるほど生徒から絶大な信頼を得ており、高3の難関大を目指すクラスの英語を担当する受験英語の神・芦田先生。赤本の執筆者であり、同志社大学の合格者をはじめその他多くの生徒を入試で9割以上の得点に導いてきた国語の太田先生。関西の名門私立校である灘中学校・高校で6年間教壇に立ち、日本最難関の東京大学理科III類の合格者や数学オリンピックのメダリストなど多くの優秀な生徒を指導してきた田中先生は、昨年は講習会やオプション講座などの短期講座を不定期で担当していましたが、今年

は通年で高3の数学IIIの講座を、さらに高1から京大・阪大・神大を本気で目指す高1トップレベル数学の講座を担当しています。そして同じく灘高校で数学の非常勤講師として教壇に立ち、多くの生徒を東大に合格させてきた菅先生は京都大学の大学院で数学・数理解析を専攻していた数学のスペシャリストで、京大・阪大・神大を目指す高3生が受講している数学の最上位クラスのトップレベル数学を担当しています。他にも、大手予備校で大教室を満席にするほどの人気を誇り、大学入試に向けて重要な1年となる高2の英語を担当している森本先生や、同志社大学で文学を専攻しながら日本史を極めたという異色の経歴を持つ庄司先生など、この規模の予備校で教えているというのは普通は考えられないくらい優秀な先生達が指導しています。



カイチ予備校が誇る自慢のプロ講師陣!



設備面では、すべての生徒が接続可能なFree Wi-fiの環境を整えました。これにより学校のパソコンやタブレットを自習室で快適に利用することが可能になり、オンライン接続が必要な課題なども予備校で消化することができるので、生徒が時間を効率的に使うのに役立っています。また、各自で自由に映像学習用のコンテンツも見ることができ、より効果的に自学を進めることが可能です。

学習面や進路指導だけでなく生活面なども含めて様々な角度から生徒をサポートするための仕組みとして、担当のチューターによる定期的な面談を行っています。今までは教室長や社員の先生が基本的に面談を実施してきましたが、年齢も近くてより身近な存在である大学生のチューターの先生が担当することで、今まで以上に生徒に寄り添った形の指導を実現しています。また、月に1度のペースで開催しているチューター座談会では、チューターの先生を囲んでお菓子を食べながらリラックスした雰囲気の中、大学でのキャンパスライフや就職活動の話・受験勉強のアドバイスなど、生徒が今後の進路を考える上で役立つ情報をお伝えしており、カイチ予備校の名物イベントとなっています。予備校のインスタグラムでも様子を見ることができ、ぜひご覧になってみてください。

このように毎年進化を続けているカイチ予備校。他にはない地元密着で地域から末永く支持される予備校であり続けるために、これからも絶えず努力と工夫を積み重ねていきたいと思っています。



◀何でも相談できる心強い味方!



▶座談会はこの日も大盛り上がり!



◀インスタのフォローお願いします▶

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

2022年度 公立高校一般入学者選抜 入試問題分析

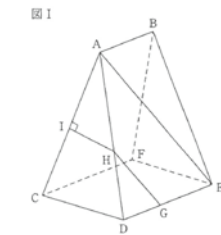
坪田 陽一 (教務長)

この原稿を書いているのは3月下旬、ちょうど春期講習の真っ只中。早春とはいえ、まだまだ肌寒い日が続いています。この記事がお手元に届く頃にはもうコートは不要になっているでしょう。

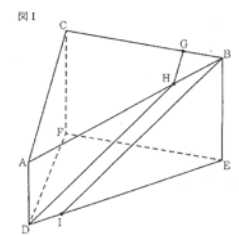
今回は、3月9日に実施された公立高校入試の問題について、それぞれ分析を行いました。早速ですが、まずは各教科主任からそれぞれの科目について難易度の変化や問題の特徴等をお伝えします。なお、英数国は入試問題が3種類ありますが、多くの生徒が受験時に目にするであろうB問題(標準)とC問題(発展)について触れていきます。

数学(岡本先生)
難易度:例年(出題範囲が大幅に削減された2020年度は除く)に比べB問題はやや易化。C問題は易化。

問題構成はBが若干変更ありましたが、問題数は変わっていません。計算問題や小問集合、関数、平面図形、空間図形とバランスよく出題されています。C問題で高配点の関数の問題も、例年通り解き方を書かせるものではなく、比較的解きやすくなっていました。図形についても、円や二等辺三角形、三角柱と、過去問を解いていたらよく見かける形が出題されています。過去問をしっかりとやり込めた人にとってはさほど難しい問題ではなかったのだと思います。ただ、計算が少しややこしい問題がありましたので、計算力は必須です。中3の1学期は「展開・因数分解」「平方根」「2次方程式」と、計算の重要単元が続きますので、中1,2の単元復習と併せて計算力に磨きをかけていきましょう。



▲2019年度の大問3より三角柱の問題です。



▲2022年度の大問3より向きを変えればそっくり!

英語(熊谷周作先生)
難易度:B問題は例年通り。C問題は例年より易化。

B問題は特に構成や問題数等に変更はなく、基礎的な知識があれば解ける問題でした。ただし自由英作文、リスニング、長文読解の練習をまんべんなくする必要があります。

C問題では長文問題が1題減りましたが、小問数は同じなので問題数の変更はありませんでした。昨年度より問題がさらに易くなりましたので、英検2級取得者が保証される「72点」が可否に大きく影響することがなくなったのではと思われます。長文問題は問題文を全て読まずとも、傍線の前後を読むだけで解ける問題が増えたため、これまでは制限時間内に解き切ることがかなり厳しかったのですが、今回は間に合う生徒も増えているように思います。最後の自由英作文は例年通りやや難しいものでした。また、今年から高校のカリキュラムから中学に降りてきた現在完了進行形・原形不定詞・仮定法も出題されました。以前に比べて学習内容は増えていますの

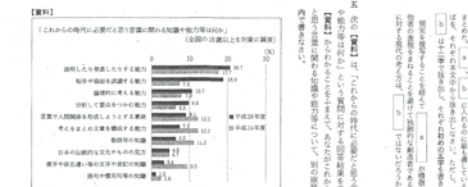
で、早め受験勉強に取り掛かり、まずは中1,2の文法や単語をマスターしていきましょう。

⑥ Read the following sentences and write your answer in English. Suppose you have a goal to achieve, but you have difficulties to achieve the goal. In each case, who or what helps you overcome these difficulties? Write who or what, and after that, from your experience or example, explain why you think so.

⑦ ⑧ suggest 考え ⑨ achieve 達成する ⑩ overcome 乗り越える
▲C問題の自由英作文。困難を乗り越えるために助けになる人や物について、自分の意見や、経験を表現する力が問われています。

国語(岸田先生)
難易度:B問題、C問題ともに昨年並み。一昨年と比べるとやや易化。

B問題、C問題いずれも例年通りの大問5つの構成です。現代文の長文2題と古文1題、漢字や文法等の知識問題1題、そして作文1題です。現代文2つのうち1つは文学や芸術を扱ったものが出題されているのも例年通り。難易度も、5年程前の「これ大学入試?」と思うような難解な文章から比べると、適切なレベルに落ち着いたのではないかと思います。古文については、Bの方は標準的なレベルでしたが、Cの方は登場人物が多く、「この発言は誰のものか」をきちんと把握する必要があり、整理できなければ難しく感じられると思います。作文は、BCいずれもグラフから必要なデータを読み取って自分の意見を書かせる問題で、テーマも普段から目に触れる機会の多いものでした。過去のC問題の作文はなにやら抽象的でつかみどころのないものでしたが、今回は書きやすかったと思います。受験生は、まず知識(文法や古典)や語彙(漢字、慣用語等)を普段から増やすことを意識して学習を進めて欲しいと思います。それが後に読解力や作文力のレベルを底上げします。



▲C問題の作文。書きやすくなったとはいえ、制限時間内に仕上げるには練習が必要。

理科(小幡先生)
難易度:例年と比べてやや易化
問題構成は例年通り大問4問で、生物、地学、物理、化学の各分野から1題ずつ出題されています。ただし今年度は「天体」「生物のつながり」「水圧・浮力」と、4分野のうち3分野が中3後半で学習する内容に偏っていました。小問の数は昨年とほぼ同じです。問題文の量は、以前と比べやや減ったとはいえ相変わらず多く、「設問から読み、問題文中から必要な情報を探す」という手順でなければ、40分で全て解ききり、見直しまで行うのは難しいです。設問の難易度は、語句や知識を問う問題から思考力を問う問題まで幅広く出題されていますが、以前と比べて計算問題の割合が減り、やや簡単になった印象です。

理科は毎年現代社会の中の様々な技術や課題を題材に、未知の内容と教科書で学習した知識を結びつけるような問題が出題されています。結びつけるには問題文から必要

な情報を読み取ることも必要で、基礎的な知識とともに読解力も必要です。ちなみに今年は力学の知識を用いて、『しんかい6500』がどのように潜水し、浮上するか、という問題が出題されました。普段の学習で、「ただ問題の解法パターンを暗記して解く」というだけでは、このような工夫された問題には太刀打ちできません。「なぜこの公式が使えるのか」「他にどのような場合ならこの解き方が使えるのか」など、より深く理解するように心がけましょう。**社会(高木直也先生)**
難易度:例年と比べて難化

例年歴史分野の問題が多いですが、今年は地理分野が多く、また昨年出題範囲がカットされた反動からか、今年は公民分野から例年以上に出題されました。設問内容としては、藤原京の位置を問う問題、ハザードマップの見方を問う問題、労働基準法の内容を問う問題など、語句の「名前」よりも語句の「内容」を問う問題が多くなりました。語句そのものを覚えるだけでなく、それが何なのか、どういう特徴を持っているのかということまで一つ一つを深く掘り下げて勉強、理解する必要があります。なお、地理で2020年にUSMCAに名称が変更されたNAFTAに関する問題が出題されるなど、日々時事問題にも注意しておく必要があります。歴史は「〜が出されたときの日本の様子として適切なものを選べ」「古い順に並べなさい」といった時系列を問う問題が毎年多く出題されています。歴史を勉強するときには物事が起こった順に内容を整理しながら勉強し、物事同士がどう結びついているのかを考えながら学習することが入試攻略のカギです。

総評
5教科では総じて「簡単になってきている」という印象です。今年はC問題の英語でその傾向が顕著であり、入試本番で(英検2級で保証される)72点を超えた生徒も増えたと思われます。2級取得は確かに上位校の入試で有利ですが、その対策に必要な以上に時間を費やして他教科の学習がおろそかになってしまうと、それが足を引っ張り残念な結果になりかねません。個人的には今後もこの傾向が続くのではないかと考えていますので、受験生の皆さんは、5教科の学習を抜かりなく進めて欲しいと思います。

また、以前から続く傾向ですが、「文章やグラフ、図表から必要な情報を素早く正確に読み取る力=読解力」を問う問題は、どの教科でも増えてきています。今の時代、知識や情報は一瞬で調べることができますので、いわゆる「暗記力」は不要なものになりつつあります。それよりも、与えられた情報や持っている知識を互いに結びつけ、考えを深めていく「思考力」が、今後の大学入試や、社会に出てから試されることとなります。

入試問題は、「中学校でこのくらいの思考力をつけておいて欲しい」というメッセージでもあります。保護者の皆様も、機会があればぜひ目を通してみてください。今の子どもたちにどんな学力をつけることが求められているのか、肌で感じる事ができるかと思えます。

新中学3年生の皆さんは、もう「受験生」です。入試説明会でも触れたとおり、受験勉強ができる時間は限られています。1年後の入試を見据え、今回の記事を参考にして今できることに積極的に取り組んでいただきたいと思います。